漁業経済
学会短信
No. 27
78. 4

第二五回大会案内特集

第二五回大会シンポジウムについて

中井　昭

「水産物の流通機構」

一九七七年六月三日に大阪で開かれた第二四回漁業経済学会大会での特別シンポジウム「二〇〇カイリ漁業専管水域設定への対処」での論議において、作られた「食糧危機論」に便乗した水産物の価格変動や、それをもたらした種々の流通機構に関し、批判的指摘がなされた。そして、水産物流通問題についての現実的な矛盾点が社会的にも強い関心をもたれていることが明らかにされた。このことは、今後の二〇〇海里時代における日本漁業の発展方向を考察する場合、その一環として「流通問題」を重要な研究課題の一つとして取りあげざるをえないことを示唆したものと言えよう。

また、われわれは、一九七五、七六年に行なわれたシンポジウム「日本漁業の成長メカニズム」において高度経済成長期を通じての漁業経済構造について、一定の分析を終了したが、それとの関連で、その後の低成長期、二〇〇海里時代という新しい段階での構造変化や、新しく創出され、又は創出されつつある諸問題について、適確な分析を行ない、研究を深めることも重要である。それには勿論、生産・流通の全分野にわたって総合的に展開されることが望ましいが、時間的、能力的制約を考えるならば、個別的分野についての研究を積み重ね、一定の時期に総合化することが適切であろう。この観点から、前述との関連も考慮しつつ、今回は「流通問題」をテーマとすることとなったのである。しかし、学会短信No.26でも記述のごとく、「その範囲には、消費論、市場論、流通機構論、あるいは需給論と、非常に広い問題領域が含まれていますから、シンポジウムを効果的に行うためには、論点を整理・限定して、かみ合った論議ができるようにする必要があり」、種々検討の結果まず、流通機構論を取りあげることとした。

その場合、流通機構論といっても、大漁港生産地、漁村的生産地、大都市消費地、地方的消費地など多岐にわたる諸問題があり、これらを個別的に論議することは、限られた一日の日程では不可能である。そこで今回は、大都市消費地における流通機構の問題に焦点をしぼって論議することとし、他の地域的な流通機構問題はなるべく前日の一般報告で論議しておくことが妥当であろうと考えた次第である。

報告論題・報告者・コメンテーター等

(1)大都市消費地における水産物市場流通の変ぼうと課題
報告者　秋谷　重男
コメンテーター　秋山　博一
高山　隆三

(2)東京都中央卸売市場機構をめぐる諸問題
報告者　中居　裕
コメンテーター　広吉　勝治

(3)大阪市中央卸売市場機構をめぐる諸問題
報告者　酒井　亮介
コメンテーター　倉田　亨

(2)(3)の論題の表現については若干変更される場合もあります。)

司会者　中井　昭
吉木　武一

日　程　六月四日（日）九時三〇分より開始し、午前中に報告を終了。一三時より一四時三〇分までコメンテータによるコメント。一四時三〇分より一七時まで、討論とまとめ

以　上

第二五回漁業経済学会大会のお知らせ

一、会場　東京水産大学教養科D四〇九教室（四階）
東京都港区港南四－五－七
電話〇三－四七一－一二五一（内線三三四）
（道順）国電品川駅東口より徒歩一〇分

二、日程　◎六月二日（金）
午後四時～六時
全国理事会（於、東京水産大学教養科会議室）
◎六月三日（土）午前一〇時～
一般報告・総会
◎六月四日（日）午前九時三〇分～
シンポジウム「水産物の流通機構」

三、一般報告の要旨提出先と期限
一般報告をなさる方は、報告要旨（四〇〇字三枚以内ヨコ書）を五月一五日必着にて事務局までお送り下さい。なお、配布資料は各自で五〇部ほど御用意願います。

四、宿舎について
各自で確保して下さい。

五、大会運営
企画、編集担当常任理事を中心にその他理事の協力による。

六、懇親会
大会当日御案内致します。

七、一般報告（予定）
水産物流通の動向と問題点
―関西地域を中心として―
福屋　敬宣

水産物消費の構造
長谷川　彰

サケ定置網漁業における漁場利用の問題点
鈴木　旭

瀬戸内海におけるイワシ漁業の立地について
外間　源治

焼津・御前崎カツオ漁船乗組員幹部の部下統卒指導性について
池松　政人

養殖漁場の合理的利用について
内藤　一郎

栽培漁業の生産共同化に関する一考察
―北海道猿払村の事例から―
島　秀典

◎学会誌編集の進行状況と方針の変更について

（企画・編集担当理事会）

一、二四巻一号・「大会シンポジウム特集号」は、左記の構成で編集を終り、現在、印刷中です。六月の大会までに、皆さんにお届けできる予定です。

論文(1)漁業労働力の需給構造―以西底曳網漁業を事例として―　中込暢彦

(2)東北型漁業労働力構造の現段階的性格　広吉勝治

(3)室戸地域マグロ漁業労働力構造の概括的考察　八木庸夫

報告◎漁業の労働力構造―第二四回大会シンポジウムの論点をめぐって―　志村賢男

二、漁業経済学会の育て親の一人、宮城雄太郎先生が、一月十四日、京都府宮津の御自宅で急逝されました。編集理事会は、先生を思ぶために、漁村文化協会浅野正次氏にお願いして、先生の業績紹介と論文目録を二四巻二号に御投稿いただくことにしました。

なお、本号は会員の自由投稿に当てており、現在、既に次の四論文が寄せられています。四月末には編集を終え、印刷へ回わすことができる予定です。

(1)沿岸漁業の再編成と「構造改善」　増田　洋

(2)地域漁業の変貌と市場流通問題―北海道後志管内岩内町を事例として―長谷川健二

(3)ホタテ貝増養殖の課題と展望　境　一郎

(4)わが国の「あま」の分布とその増減に関する考察　大喜多甫文

三、二四巻三・四合併号は、既報のとおり岡本清造先生の退官記念号として編集を進めて来ましたが、本年は、当学会の二五周年記念号」に改め、広く学会員からも投稿を求めることにし、岡本先生関係の論文もその中に含めるという方針に変更しました。なお、投稿論文数が多く、一号に収まらない場合には、次号（二五巻一号）も同記念特集号にすることを考慮しています。

以上の方針変更を、会員の皆さんが御了承くださるようお願いすると共に、同特集への積極的な御投稿を期待します。

◎原稿募集

学会二五周年記念論文を募集します。締め切り日は五三年七月末日（期日厳守）、投稿要領は従来どおりです。ふるって御投稿くださるようお願いします。

事務局通信

□昭和五二年度ボーナス・カンパについて

会員の皆様の御協力によりまして所期の目標を達成致しました。ここに御報告申上げ感謝致します。

募金額（三月三一日現在）一八六〇〇〇円

募金者数　六四名

募金者氏名（順不同）

岡　伯明　近藤康男

富山県漁協組合連合会　西村章作

五十嵐　暢　中井　昭

宮城雄太郎　飛田勇次

鶴田正裕　矢荻静也

平沢　豊　千手竜征

大島襄二　蓑田瑞穂

斉藤正一　秋谷重男

中込暢彦　木下哲一郎

岩崎寿男　田中光男

浦城晋一　中楯興
相沢昂　浜崎礼三
鎌倉靖夫　長谷川彰
浅野長光　倉田亨
八木庸夫　宮本常一
市川英雄　境一郎
米田一二三　嘉成三郎
浜口光也　大海原宏
高橋泰彦　小熊辰雄
内藤一郎　二野瓶徳夫
松坂利通　橋本隆

山本辰義　孔竜植
安枝俊雄　小松昭介
志村賢男　岩切成郎
漁業信用基金中央会　大喜多甫文
三輪千年　伊藤義勇
富成幸一　高山隆三
和田勉　外間源治
柿本典昭　青野寿郎
多屋勝雄　河野通博
寺坂登　酒井亮介
池松政人　野沢勇作

◎**新入会者**（昭和五〇年度以降）

氏名	所属
加瀬和俊	東京水産大学
隆島史夫	〃
中前明	水産庁
菅原洋一	北海道漁連
関根幹男	外務省経済局
関与一郎	東北区水研
安楽守哉	法政大院生
前川朋幸	
木原康雄	北海道大学
増田洋	東京水産大研究生
柳谷信一	健設大学校
永延幹男	

氏名	所属
榎彰徳	京都大学院生
片岡千賀之	鹿児島大学
袁基一	東京水産大研究生
大野栄一	駒沢大学院生
三浦元雄	宮城漁連
外間源治	南西区水研
井手義明	
松田恵明	ウッズホール海洋研究所
松岡英二	水産庁
畠山和史	全国共済組合連合会
竹浜秀一	水産庁
岡本勝	水産庁

◎**退会**（本人よりの申出）

高田輝之　谷川高士
藤原弘雅　川口恭一
中村睦大　山田隆成
中村昌久　清水三郎
矢口正直　野中六郎
佐藤紀三男　藤田正
古川厚　岡本勝
三崎船員組合

◎**会費未納**（二年以上）につき会誌発送停止

会員

秋田俊一　岩井紘
飯生喜保　小黒哲郎
菊地重嘉　田代三郎
田中弐　宮原九一
原多計志　長井理
山本正　安岡晴幸
三宅哲夫　渡辺栄一
三重県漁連

◎昭和五〇年度以降次の会員の方々が逝去されました。慎しんで御冥福をお祈します。

安藤由久　岩崎繁野　椙田拓治
桜田勝徳　宮城雄太郎